

0歳から18歳までの継ぎ目のない共育を実現させよう！

前回のおたよりでは、三ツ星学園と光の森学園で始まっている特色ある探究学習をテーマにシームレスな共育を考えてみました。

今回は、光の森学園で行っている「フレンドシップウィーク」を取り上げ、皆さんと一緒にシームレスな共育について考えてみたいと思います。

「フレンドシップウィーク」とは何か

合掌造り集落としてユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録された白川村に、平成29年度から新設された「義務教育学校 白川郷学園」があります。令和7年度、初めての卒業生を出す9年目の白川郷学園に、教育委員会と川根本町義務教育学校の先生方とで研修訪問させていただきました。そこで観させていただいた「結（ゆい）クラス」での活動が、私たちにとって大きな刺激となりました。「結（ゆい）」とは、白川郷の集落で人々が互いに助け合い、共同作業を通じて生活や生産を支え合う相互扶助の制度と精神です。この活動を川根本町型に仕立てた取組が、光の森学園で本年度から始まった「フレンドシップウィーク」なのです。「フレンドシップウィーク」の目的のひとつに、年齢や考え方の違いから生まれる多様な視点に気づき、それらを認めながら新たなアイデアを生み出す経験を積むことがあります。異学年集団というシームレスな関わりを通して、子どもたちはもちろん、先生方にとっても多くの学びと気づきがありました。



縦割り班で給食。ふだんとは違う異学年の仲間と楽しく会食しました。

「フレンドシップウィーク」で共に育つ子どもと先生

フレンドシップウィークでの活動を、西澤教頭先生は先生方に対して、「8・9年生の数学『運動場のトラックコースを描く！』では、チームごと、思考・計算・作図等、子どもたちが、『思いのままに』自分の得意を生かしつつ役割分担しながら進めていました。しかし、その『思いのままに』がすてきだなと思いました。先生の指示ではなく、自分たちで必要感をもって、自分たちの方法で取り組んでいる姿が自律した学びの一步になっていくのだと感じました。」と、価値付けてくださいました。



4・5・6年生で国語の授業一緒に言葉のイメージをふくらめました。

また、「フレンドシップウィーク」が終わった後、子どもたちはこんな感想を持ちました。「いつも一緒に授業をしない学年の意見を聞けたり、話し合ったり新しい考え方を知ることができて、とても新鮮でした。給食も一緒に食べて、みんなでワイワイできて楽しかったです。リレーのために練習を班で行動する機会が増えてよかったです。前よりも前期課程と関わって仲が深まったと思います。」

また、先生方にとっても多くの気づきがあったようです。「縦割りだからこそ、関わりを通して学びの深まりを子供自身も実感できたと思います。また、普段できない体験も多々あったと感じました。子供たちも、今日は何するんだろうと、回を重ねる度にワクワクしているつぶやきが聞こえてきました。また、教師も、チャレンジしてみようと前向きに取り組んだり、共に教材研究に取り組んだりして、授業力UPにもつながりました。」

「成果については計り知れません」という先生の感想もありました。いつものメンバーの中では見られない子供の姿に出会えた先生方の喜びの声をたくさん聴くことができました。



第7号も最後まで読んでいただきありがとうございました。これからも川根本町のシームレスな共育について、お伝えしていきたいと思います。

ご意見ご感想をお聞かせください。

E-mail :

k-ishihara@town.kawanehon.lg.jp



後期課程の探究学習の取り組み状況を細田先生にプレゼン。これからの自分たちの学びの方向について確認し合いました



3～6年生音楽 ボディーパーカッションに挑戦！翌日の3～9年生との合同アンサンブルの圧巻の演奏は、大きな感動を生みました



7・8年生数学
方程式の既習事項を生かしてミッション解決に挑戦しました



3～6年生道徳 縦割り班の仲間と「真の友情、協力」について考え合いました



体育大会に向けて、「2・3年生のリーダー」を中心にソーラン節の練習を重ねました



4～6年生 友達とのかかわり方について「こんな時どうするか」を共に考えました(県版SELの学習)